

(1993年11月26日設立)

英語語法文法学会 THE SOCIETY OF ENGLISH GRAMMAR AND USAGE

事務局便り

No. 40

2025年4月12日

会 長 吉良文孝

事務局

〒605-0927 京都市東山区渋谷通り東大路東入ル3丁目上馬町 544

京都女子大学文学部英語文化コミュニケーション学科 松原史典 研究室内

TEL : 075-531-9082 (内線) FAX : 075-531-9120

Email: segu.office@gmail.com

ウェブサイト: <https://segu.sakura.ne.jp> 郵便振替口座 02260-0-70393 英語語法文法学会

◆『英語語法文法研究』第31号刊行

『英語語法文法研究』第31号が2024年12月に刊行されました。第31回大会でのシンポジウム「現代英語に見る歴史の痕跡」の論文4編のほか、「奨励賞論文」1編、「論文」5編、「書評」1編が掲載されています。

◆第21回「英語語法文法セミナー」開催案内

標記セミナーを下記の要領で開催いたします。

日時：2025（令和7）年8月9日（土）

13時30分～17時30分

会場：大阪公立大学文化交流センター ホール
(〒530-0001 大阪市北区梅田 1-2-2-600
大阪駅前第2ビル6階)

※ 昨年度と同じ会場となります。

会場ウェブサイト：

<https://www.omu.ac.jp/bunkakouryu-center/>

以下、会場ウェブサイトより

【JR大阪駅から】

中央改札口から右手（大丸側）にすすみ、地下街をほぼまっすぐ北新地駅方面へ、徒歩約7分で、北新地駅手前、左手に大阪駅前第2ビルの地下2階フロアー入口に到着します。

【JR東西線北新地駅から】

北新地駅下車、東口改札口から大阪駅前第2ビル地下2階フロアーにすぐ入れます。

【地下鉄西梅田駅から】

大阪駅前第1ビル方面改札口から第1ビルを通り抜けて徒歩5分で大阪駅前第2ビルに到着します。

【地下鉄東梅田駅から】

南改札口を出て、大阪駅前第4ビルに入り、大阪駅前第3ビルを通り、大阪駅前第2ビルへ徒歩7分

参加費：2,000円

今回のテーマは、『英語教育と英語研究の関連性を探る一文法、文学、言語研究の観点から』です。司会と各講師のタイトルは以下の通りです。

司会・講師：石原健志（大阪星光学院中学校・高等学校）「英語文法・英語語法の知見を英語教育にいかに関与させるか」

講師：萩澤大輝（近畿大学）「認知言語学は英語教育に活かせるか」

講師：川原功司（名古屋外国語大学）「意味順」で教える英語の項構造」

講師：倉林秀男（杏林大学）「文学と語学教育を往還する」

[敬称略]

参加ご希望の方は、本学会ウェブサイト (<https://segu.sakura.ne.jp>) にアクセスし、申込フォームに必要事項を記入の上、お申し込みください（申込フォームの利用開始時期につきましては、追って本学会ウェブサイトにてお知らせいたします）。

申込み締め切りは7月31日（木）です（お申し込みはお早めをお願いします）。必要な方にはセミナー受講証も発行いたします。奮ってご参加ください。

◆第33回大会開催案内

英語語法文法学会第33回大会を下記の要領で開催いたします。後述の応募規定を十分にご参照いただき、ご応募くださいますようお願いいたします。

日時：2025（令和7）年10月11日（土）

会場：京都外国語大学

（〒615-8558 京都市右京区西院笠目町6）

会場ウェブサイト：

<https://www.kufs.ac.jp/access/index.html>

以下、会場ウェブサイトより

【阪急京都線利用の場合】

「西院」駅から西へ徒歩約15分。または市バス「西大路四条」（西院）から3・8・28・29・67・69・71系統に乗車、「京都外大前」で下車（所要乗車時間約5分）。

（「大阪梅田」駅から「西院」駅までは約40分）

【JR線利用の場合】

「京都」駅烏丸口から市バス28系統、八条口から市バス71系統に乗車、「京都外大前」で下車。（ともに所要乗車時間約30分）

【地下鉄烏丸線利用の場合】

「四条」駅で下車、市バス「四条烏丸」から3・8・29系統に乗車、「京都外大前」で下車。（所要乗車時間約15分）

【地下鉄東西線利用の場合】

「太秦天神川」駅から南へ徒歩約13分。

【京阪本線利用の場合】

「三条」駅から地下鉄東西線に乗り換え、「太秦天神川」駅から南へ徒歩約13分。

今回のシンポジウムは、「英語へのコンストラクション（構文）的アプローチ」をテーマとして準備中です。司会と講師は以下の通りです。ご期待ください。

司会・講師：前川貴史（龍谷大学）「不定冠詞と複数形名詞が出会うとき」

講師：町田章（日本大学）「ネットワークを用いた構文分析—BE V-en INF 構文を例に—」

講師：柴崎礼士郎（明治大学）「“So, look, I mean, you know, the fact is, is that...” —語用論標識の連鎖と語法について—」

講師：村尾治彦（熊本県立大学）「談話構文としての数量・推移構文」

[敬称略]

◆第25回「英語語法文法学会賞」選考結果

初代会長小西友七先生の寄付金を基金とした第25回「英語語法文法学会賞」（2023年4月1日～2024年3月31日までに出版された単行本が対象）について、推薦がなかったため、該当者なしという結果になったことが第32回大会において報告されました。

◆第26回「英語語法文法学会賞」について

英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に贈られる第26回英語語法文法学会賞対象図書は推薦（他薦に限る）を受け付けておりません。対象図書は2024年4月1日～2025年3月31日までに出版された単行本です（ただし、研究社より順次刊行されている『〈シリーズ〉英文法を解き明かす』全10巻は本賞の対象とはなりませんので、ご注意ください）。

同封の推薦用紙に推薦図書、推薦理由を記入の上、**fax**あるいは郵便で2025年5月10日までに事務局宛にお送りいただくか、同一の内容を**email**で事務局までお知らせください。

事務局：

〒605-0927 京都市東山区渋谷通り東大路東入ル3丁目上馬町544

京都女子大学文学部英語文化コミュニケーション学科

松原史典 研究室内

FAX: 075-531-9120

Email: segu.office@gmail.com

英語語法文法学会賞の授賞に関する規定

（授賞）

第2条 学会賞は、前年度4月1日から翌年3月末日までに、英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に対して、学会が設置する「英語語法文法学会賞委員会」（以下「委員会」という）の選考により、運営委員会の議を経て授賞する。

2 授賞は、原則として年度ごとに1件とする。

3 授賞式は年次大会において行う。

（関係部分一部抜粋）

◆第15回「英語語法文法学会奨励賞」選考結果

若手会員による英語の語法・文法に関する優れた論文に対して贈られる第15回「英語語法文法学会奨励賞」には、下記の会員とその論文が選ばれました。第32回大会（大阪公立大学）で表彰式が行われ、会長より賞状と賞品が贈られました。

高松 龍氏

“Non-Restrictive Gerundive Relative Clauses in English” (『英語語法文法研究』第31号に掲載)

なお、第16回「英語語法文法学会奨励賞」は、本年7月10日締め切りの『英語語法文法研究』への応募論文がその対象となります。

英語語法文法学会奨励賞授賞規定

(授賞の対象)

第2条 奨励賞は、毎年7月10日を締切日とする『英語語法文法研究』への応募論文(研究論文(単著)に限る。シンポジウム論文、語法ノート、書評は除く)を対象として、英語語法文法学会の趣旨に照らし、実証性・独創性・発展性に富む、優れた研究に対して授賞する。応募者は上記の締切日の時点で、39歳以下、または大学院修士課程あるいは博士前期課程修了後10年以内の学会会員に限る。なお、同賞の授賞は過去に受賞のない者に限る。

(選考方法)

第3条 編集委員会が選考にあたり、運営委員会の議を経て決定する。奨励賞の授賞は、原則として年度ごとに1篇以内とする。

(選考結果の発表および授賞式)

第4条 授賞式は年次大会において行う。受賞者に対しては、賞とともに記念品を贈呈する。

(関係部分一部抜粋)

◆各運営委員会委員の就任

今年度の各委員会の委員長、副委員長、構成員は下記の通りです(◎は委員長、○は副委員長)。

大会実行委員会

◎山岡 洋 ○出水孝典 住吉 誠 吉田幸治
中澤和夫 吉川裕介 [敬称略]

セミナー委員会

◎大澤 舞 ○西脇幸太 前川貴史 五十嵐海理
山本 修 村上まどか 金澤俊吾

[敬称略]

◆第33回大会研究発表者募集

第33回大会での「研究発表」の発表者を募集します。会員の方は、下記の研究発表応募規定に従い、奮ってご応募ください。

発表要旨ファイルと応募者情報ファイルについては、①emailによる投稿ファイルの送付と、②Google Formによる投稿確認との2段階で会員の皆さま方の投稿を確実に受け取れるようにしております。

＜研究発表応募規定＞

1. 応募者は英語語法文法学会の会員でなければならない。2名以上の共同研究で応募する場合は、応募者全員が会員でなければならない。
2. 発表時間は25分以内(別に質疑応答が10分)とする。
3. 応募者は、下記①と②の応募書類を作成し、英語語法文法学会事務局に締め切り日までに提出すること。

① 発表要旨(MS Word ファイルおよび PDF ファイル):

A4判 32字×25行(文字の大きさは12ポイント)で、本文と注を含めて4枚以内とする。ただし、参考文献表は枚数に含めない。冒頭には発表題名のみを記し、氏名・所属は記入しないこと。要旨の内容は、本学会の設立趣意書に鑑み、個別言語としての英語の実態を体系的に明らかにし、英語の具体的な語彙や構文の特性を実証的に解明することを目的として、未発表のものであること。

② 応募者情報(MS Word ファイルおよび PDF ファイル):

発表題目、氏名(ふりがな)、所属・職名(学生会員は学年も記入)、郵便番号、住所、電話番号、email address を明記したもの。①とは別のファイルを作成すること。

4. 上記①と②は、次の2つの手続きにより提出すること。

4-1. 本学会事務局宛(segu.office@gmail.com)に、

①と②をemailに添付し、送信する。件名は「研究発表応募」とする。応募者は発表要旨のファイル送信に先立ち、ファイルの「プロパティ」等を確認し、ファイル情報等に作成者名を残さないこと。

4-2. 本学会の研究発表応募用ウェブページにアクセスする。ウェブページに必要事項を入力の上、送信すると応募者本人に受領のメールが届く(英語語法文法学会のGmailアドレスにもメールが届く)。

ウェブページは、必要事項を全て入力しないと送信できない点に留意すること。

(4-1)事務局へのファイルの送付と(4-2)研究発表応募用ウェブページからの記入送信の両方がそろった段階で応募が完了する。なお、ウェブページからのメール返信をもって、応募受領の通知とする。

5. 応募締め切りは、(4-1)事務局へのファイル送付と(4-2)研究発表応募用ウェブページからの記入送信の両方も、7月25日23時59分(必着)とする。

6. 選考結果は8月中旬までに通知する。

7. 採用者は発表要旨(500字以内)と、予稿集の原稿を所定の期日までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。
(2025年3月10日 改定)

[応募用ウェブサイトについて]

上記規定の 4-2 にある「研究発表応募用ウェブページ」は、7月10日より学会ウェブサイトから利用可能となります。

[お願い]

応募者の方々には、発表要旨のファイル送信に先立って、ファイル情報等に作成者名を残さないよう、ファイルの「プロパティ」等をご確認くださいますようお願いいたします。

◆第33回大会語法ワークショップ発表者募集

第33回大会での「語法ワークショップ」の発表者を募集します。語や構文などを取り上げ、言語資料に基づきその振る舞いの特性を明らかにすることを目的とします。下記の語法ワークショップ応募規定に従い、事務局宛 (segu.office@gmail.com) に奮ってご応募ください。

なお、発表要旨ファイルと応募者情報ファイルについては、事務局メールアドレスへのファイル送付による投稿と、Google Form による投稿確認との2段階で会員の皆さま方の投稿を確実に受け取れるようにしております。

<語法ワークショップ応募規定>

1. 応募者は英語語法文法学会の会員でなければならない。2名以上の共同研究で応募する場合は、応募者全員が会員でなければならない。
2. 発表時間は15分以内(別に質疑応答が5分)とする。
3. 応募者は、下記①と②の応募書類を作成し、英語語法文法学会事務局に締め切り日までに提出すること。
 - ① 発表要旨(MS Word ファイルおよび PDF ファイル):
A4判 32字×25行(文字の大きさは12ポイント)で、本文と注を含めて4枚以内とする。ただし、参考文献表は枚数に含めない。冒頭には発表題名のみを記し、氏名・所属は記入しないこと。要旨の内容は、本学会の設立趣意書に鑑み、個別言語としての英語の具体的な語彙や構文の特性を調査した成果を報告することを目的として、未発表のものであること。
 - ② 応募者情報(MS Word ファイルおよび PDF ファイル):

発表題目、氏名(ふりがな)、所属・職名(学生会員は学年も記入)、郵便番号、住所、電話番号、email address を明記したもの。①とは別のファイルを作成すること。

4. 上記①と②は、次の2つの手続きにより提出すること。

4-1. 本学会事務局宛 (segu.office@gmail.com) に、①と②を email に添付し、送信する。件名は「語法ワークショップ応募」とする。応募者は発表要旨のファイル送信に先立ち、ファイルの「プロパティ」等を確認し、ファイル情報等に作成者名を残さないこと。

4-2. 本学会の語法ワークショップ応募用ウェブページにアクセスする。ウェブページに必要な事項を入力の上、送信すると応募者本人に受領のメールが届く(英語語法文法学会の Gmail アドレスにもメールが届く)。ウェブページは、必要事項を全て入力しないと送信できない点に留意すること。

(4-1)事務局へのファイルの送付と(4-2)語法ワークショップ応募用ウェブページからの記入送信の両方がそろった段階で応募が完了する。なお、ウェブページからのメール返信をもって、応募受領の通知とする。

5. 応募締め切りは、(4-1)事務局へのファイル送付と(4-2)語法ワークショップ応募用ウェブページからの記入送信の両方も、7月25日23時59分(必着)とする。

6. 選考結果は8月中旬までに通知する。

7. 採用者は発表要旨(500字以内)と、予稿集の原稿を所定の期日までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。

(2025年3月10日 改定)

[応募用ウェブサイトについて]

上記規定の 4-2 にある「研究発表応募用ウェブページ」は、7月10日より学会ウェブサイトから利用可能となります。

[お願い]

応募者の方々には、発表要旨のファイル送信に先立って、ファイル情報等に作成者名を残さないよう、ファイルの「プロパティ」等をご確認くださいますようお願いいたします。

【応募上の注意】

研究発表と語法ワークショップの両方に同時に応募することはできません。
また、二重投稿はご遠慮ください。

◆『英語語法文法研究』投稿募集

『英語語法文法研究』（第32号）への投稿を受け付けています。論文・語法ノートへの投稿は現代英語の語法および文法研究に資する内容のもので未発表論文に限ります。原稿ができた時点で早目に投稿していただければと思います。

近年インターネット上の用例を使用されている投稿論文が多いようです。インターネット上の用例を使用する場合は、インフォーマントチェックを必ず受けておいてくださるようお願いいたします。

なお、英語語法文法学会奨励賞授賞規定の改定（2023年3月11日）に伴い、投稿規定が一部改定されましたのでご注意ください（下記6②の下線部を参照）。

＜『英語語法文法研究』（第32号）の論文・語法ノートへの投稿規定＞

1. 投稿は会員に限る。
2. 投稿論文は現代英語の語法および文法研究に資する内容のものであり、未発表の論文であること。
3. 投稿締め切りは **7月10日(必着)**、採否決定を8月中旬、刊行を12月とする。
4. 単著・共著にかかわらず、同一人が同時に2本以上の論文を投稿することはできない。論文と語法ノートに各1本(計2本)、あるいは語法ノートのみにも2本以上の投稿は認められる。
5. 論文の場合、長さは34文字×31行、16枚以内とする。語法ノートの場合、長さは34文字×31行、6枚以内とする。注は脚注とし、脚注の文字数も論文・語法ノートに規定された総文字数に含める。
6. 投稿者は、下記①と②の電子ファイル、ならびにその紙媒体を用意する。
 - ① 「論文」・「語法ノート」の原稿(MS Word ファイルまたはPDFファイル)
冒頭には論文題名のみを記し、名前・所属は記入しない。また、ファイルの情報として作成者名を残さない(ファイルの「プロパティ」等を確認し、必ず作成者名を削除するか匿名にする)。
 - ② 執筆者情報(MS Word ファイルまたはPDFファイル)
論文題名、氏名(ふりがな)、所属、連絡先の郵便番号と住所、電話番号、email address を明記する(共著の場合は、執筆者全員の情報を明記のこと)。投稿論文が奨励賞の審査対象となることを希望する場合は、必ず、当該年度の投稿論文応募の応募締切時点での年齢と、大学院修士課程あるいは博士前期課程を

修了した年月(または、在籍中ならばその旨)を、このファイルに明記すること。(奨励賞の対象は研究論文(単著)に限る(シンポジウム論文、語法ノート、書評は除く)。応募者は上記の締切日の時点で、39歳以下、または大学院修士課程あるいは博士前期課程修了後10年以内の学会会員に限る。なお、同賞の授賞は過去に受賞のない者に限る。)

なお、紙媒体については、①と②を、A4用紙にそれぞれ1部印刷する。

7. 入力に関しては、特に以下の点に留意すること。
 - a. 投稿の段階では原稿に謝辞を入れない。
 - b. 例文の前後に1行ずつの空白行を設ける。
 - c. 各節には見出しをつけ、節の前に1行ずつ空白行を設ける。
 - d. 外字、機種特有の文字・記号は使用しない。
 - e. 和文中の英語の語句の前後に半角のスペースを入れる。
 - f. 2桁以上の数字は半角を用いる。
 - g. 小説・論文の出典は下のように表記する。(S. Sheldon, *The Windmill*), (Declerck 1979: 123)
 - h. 上記以外は既刊号の論文を参考にすること。
8. 参考文献の書式は以下の例にならうこと。

Hopper, P. J. 1979. "Aspect and Foregrounding in Discourse." In T. Givón ed., *Syntax and Semantics* 12, 213-241. New York: Academic Press.

柏野健次. 1993. 「easy タイプの形容詞の3つの意味」衣笠忠司・赤野一郎・内田聖二(編)『英語基礎語彙の文法』145-154. 東京: 英宝社.

小西友七. 1976a. 『英語の前置詞』東京: 大修館.

小西友七. 1976b. 『英語シノニムの語法』東京: 研究社.

Lasnik, H. and M. Saito. 1984. "On the Nature of Proper Government." *Linguistic Inquiry* 15, 235-289.

村田勇三郎. 1979. 「Functional Sentence Perspective」『英語青年』第125巻第3号, 20-21.

Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.

van der Leek, F. 1996. "The English Conative Construction: A Compositional Account." *CLS* 32, 363-373.
9. 原稿の採否は編集委員会の審査により決定する。
10. 著者校正は1回とし、変更は字句の修正のみとする。
11. 原稿料は支払わない。

12. 応募書類の提出先

第6項の①と②の電子ファイルはemailに添付して、編集委員長宛にemail(segu.paper@gmail.com)で送ること。件名を「投稿」とする。また、①と②の紙媒体は、編集委員長宛*に郵送すること(「投稿論文在中」と朱記)。

*〒950-2181

新潟市西区五十嵐2の町8050番地

新潟大学人文社会科学系 大竹芳夫

(2023年3月11日改定)

【応募上の注意】

研究発表との二重応募、他学会の機関誌との二重投稿はできません。

◆学会誌の公開について

学会誌『英語語法文法研究』に掲載される論文は、学術目的で、論文の執筆者が所属する機関・組織のリポジトリ、執筆者個人のウェブページ等で学会誌出版後すぐに公開可能となるよう現在調整中です。

◆英語語法文法学会第32回大会(報告)

英語語法文法学会第32回大会は、2024年10月19日(土)、大阪公立大学杉本キャンパスにて開催され、語法ワークショップ、研究発表、シンポジウムが行われました。多数の参加者があり、活発な議論が行われました。司会を務めてくださった村上まどか先生、須賀あゆみ先生、堀田優子先生、松原史典先生、開催校委員の山本修先生、お手伝いいただいた大阪公立大学の学生の方々にお礼を申し上げます。

語法ワークショップ 10:30-11:45

(全学共通教育棟1階813教室)

1. 「it is time 関連表現と補文形式に関する一考察」
寺山里穂(金沢大学大学院)
2. 「動詞 name に後続する前置詞」
桑名保智(旭川医科大学)
3. 「英語の自由関係節における補文標識の出現について」
松山哲也(和歌山大学)
4. 「英文和訳で現れる逆接表現—Hercule Poirot's Christmas を例に」
田岡育恵(大阪工業大学)

研究発表 13:00-14:45

第1室(全学共通教育棟1階813教室)

1. 「英語における周辺の後位修飾表現の諸相」
高松龍(東京大学大学院)
2. 「範囲指定要素を強く要求するly副詞:物理的な位置を示すcentrallyを手がかりにして」
松田佑治(名古屋学院大学)
3. 「動詞workの語義と語彙アスペクト」
出水孝典(神戸学院大学)

第2室(全学共通教育棟1階812教室)

1. 「make 複合他動詞構文における節目的語外置の際の形式目的語itの有無について—コーパス調査とconstructional contaminationに基づく分析—」
木村快(慶應義塾大学大学院)
2. 「主語位置のitが提示する状況描写の談話役割に関する一考察—小説のチャプター冒頭に着目した比較調査を基に—」
山本茉莉(同志社大学大学院)、山内信幸(同志社大学)
3. 「that節を従えるNP be raisedの諸特徴」
徳永和博(東京農業大学)

シンポジウム 15:35-17:45

(全学共通教育棟1階813教室)

テーマ「To不定詞構文をめぐる現象」

司会 松原史典(京都女子大学)

1. 「It is Adjective of NP to VP 構文におけるTo不定詞節の意味的・文法的特質」
松原史典(京都女子大学)
2. 「To不定詞を伴う擬似法助動詞の語法—be about to, be going to, be toを中心として—」
佐藤健児(日本大学)
3. 「Tough 構文におけるTo不定詞補部の意味的・文法的特質」
澤田治美(関西外国語大学名誉教授)

懇親会 18:00-19:30

野のはなハウス(学術情報総合センター1階)

◆2024 年度新入会員紹介

以下の方々が新しく本学会に入会されました。どうぞよろしくお願いたします（50 音順。掲載希望者のみ）。

伊計 拓郎（帝塚山学院大学）
井上 有里子（立命館大学）
檜本 拳斗（京都大学大学院）
笠井 俊宏（愛知淑徳大学）
木村 快（慶應義塾大学大学院）
栗山 幸雄（日本大学大学院）
館 洋祐（関西学院大学）
高田 直人（京都大学大学院）
竹内 純（木更津総合高等学校）
松本 風見（成美堂）

[敬称略]

◆2023 年度会計報告 (Apr. 2023 - Mar. 2024)

(第 32 回大会総会において承認されました。)

(収入)	(以下、単位：円)
前年度繰越残高	4,908,759
会費	1,429,000
学会誌売り上げ	31,274
懇親会費	201,000
雑収入	151,473
計 (1)	6,721,506
(支出)	
事務局費	10,000
通信費	195,669
旅費交通費	233,950
印刷費	14,134
人件費	0
会議費	15,983
消耗品費	26,039
雑費	7,810
雑誌製作費	1,000,501
大会運営費	299,147
計 (2)	1,803,233
残高現在 [計(1)-計(2)]	4,918,273

◆年会費納入のお願い

本学会の年会費は、「一般会員」は 5,000 円、「学生会員」は 4,000 円となっております。つきましては、2025 年度（2025 年 4 月～2026 年 3 月）会費を同封の郵便払込取扱票でお支払いください。申し訳ありませんが、払込手数料は各自ご負担ください。

金額欄が 10,000 円または 8,000 円になっている方は、前年度分年会費が未納ですので、併せて納入くださいますようお願いいたします。会費が 2 年連続して未納の場合は、会員資格が失効いたします。

「学生会員」は郵便払込取扱票の通信欄に住所・氏名に加えまして、「在籍大学（院）名」もご記入ください。なお、学会からの配布物を確実にお手元にお届けするために、**住所・所属に変更や異動のある方は、必ず英語語法文法学会のウェブサイト (<https://segu.sakura.ne.jp/>) の「登録情報の変更」連絡用フォームにて事務局までお知らせください**ますようお願い申し上げます。また、**メールアドレスをご登録でない方は、事務局までお知らせください**。今後、メールでご連絡を差し上げる**可能性がございますので、ご協力をお願いいたします**。メールアドレスを変更された場合も、**必ずご連絡ください**。

本学会では自然災害等における被災者に対しては、原則として災害発生年度の学会費を免除しております。対象となる方は事務局までご連絡ください。

◆新刊書紹介

中澤和夫 *A Short Introduction to the Structure of English* 東京：開拓社。2024 年 6 月。

野村忠央『英語史ノート』DTP 出版。2024 年 8 月。
村上まどか『VP は VIP—動詞を中心とした英文法一』東京：開拓社。2024 年 9 月。

金澤俊吾『ことばを彩る 2 形容詞修飾の諸相』（「シリーズ」英文法を解き明かす—現代英語の文法と語法」6）東京：研究社。2024 年 9 月。

前川貴史・西脇幸太・吉田幸治（編）『学習英文法 研究の新展開—教員が知っておくべき文法—』東京：開拓社。2025 年 3 月。

◆終身会員

2020 年の大会で終身会員制度が認められ、発足しました。該当する会員は、本学会 HP の「学会規約」タブの中の「終身会員規定」の条件を確認したのち、本学会 HP の「入会方法について」タブの中の「終身会員の手続き」をご覧ください。

また、周りに終身会員に該当すると思われる方がいる場合は、その方々にこの制度を周知していただけますようお願いいたします。

◆メールリングリストの運用

本学会に関する情報を会員の皆さまに迅速に周知することを目的として、2025 年 4 月よりメールリングリストの運用を開始いたします。メールアドレスを登録されていない方、メールアドレスが最新でない方は、本学会ホームページの「登録情報の変更」にてご連絡ください。

編集後記

本年度も『事務局便り』をお届けできることを大変嬉しく思います。2024年4月より吉良文孝会長のもと、事務局も新体制となり、おかげさまで無事に1年間の行事を遂行することができました。これもひとえに、運営委員会の先生方、そして何よりも会員の皆様の温かいご支援とご尽力の賜物であると、改めて実感しております。心より感謝申し上げます。

今年度の年次大会は京都外国語大学で開催されます。歴史と文化に彩られた京都の地で、英語語法文法研究に関する活発な議論が交わされることを期待しております。会員の皆様からの多数の発表応募をお待ちしております。

私の勤務校も京都の有名な観光地に近く、少し歩けば歴史的・文化的遺産が多く存在する恵まれた環境にあります。しかし、コロナ禍の静けさが嘘のように観光客が押し寄せ、オーバーツーリズムの影響を日々実感しています。その結果、私自身は自宅と大学の往復に終始し、せっかくの立地を活かしていないという、何とも贅沢な悩みを抱えている次第です。「いつでも行ける」と思っていると、結局行かずに終わってしまうもの。今この瞬間を大切に、「できるときに、できることを」をモットーに、これからも精進してまいりたいと思います。

最後に、本学会が今後も英語語法文法研究の発展に寄与し、研究者同士の交流の場として機能し続けることを心より願っております。引き続き、本年度も変わらぬご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。本学会のさらなる発展を祈念し、結びの言葉とさせていただきます。

(2025年4月12日 松原史典)

